

「令和6年度 常磐中学校についてのアンケート」の結果と考察

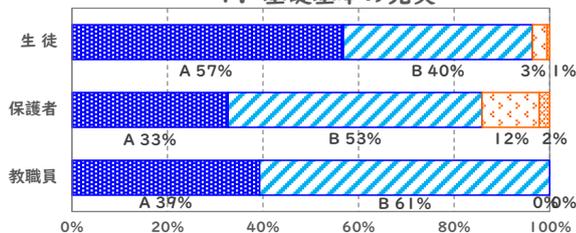
令和6年12月に実施しましたアンケート結果とその考察を報告します。本校では、学校教育目標を「生き生きと輝く」とし、確かな学力と豊かな心と健やかな体を育み、生き生きと輝く生徒の育成を図ることを目指して教育課程を編成し、教育活動を行っています。

アンケートでは、生徒や保護者のみなさんから本校の教育活動に対する貴重なご意見をいただきました。いただいたご意見は、今後の教育活動に役立てるように各種会議で検討いたしました。生徒や保護者のみなさんの期待に応え、また、地域の方々から信頼されるよう、よりよい学校づくりを目指して、教育活動の実践に努めてまいります。

■ A:あてはまる(そう思う) ■ B:ややあてはまる(だいたいそう思う) ■ C:ややあてはまらない(あまりそう思わない) ■ D:あてはまらない

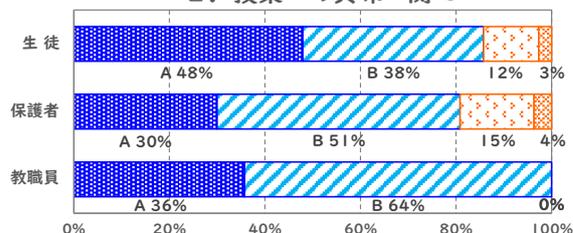
【確かな学力の定着と指導の充実】(質問1~4)

1. 基礎基本の充実



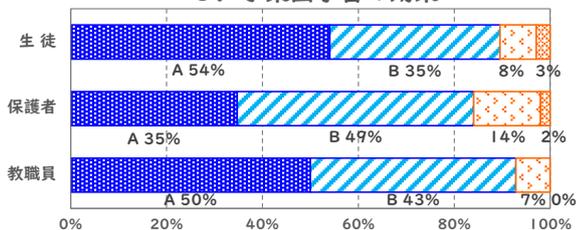
生徒	先生たちは、基本的な内容をわかりやすく教えてくれる。
保護者	お子さんは、授業がわかりやすいと言っている。
教職員	授業で基礎基本を明確にし、分かりやすい指導をしている。

2. 授業への興味・関心



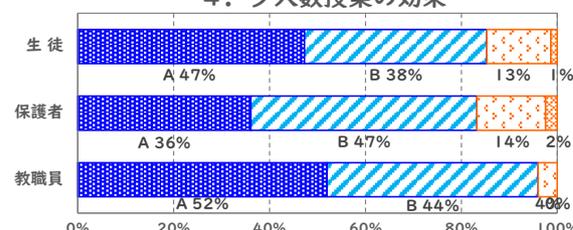
生徒	授業を受けていて「おもしろい」と感じたり、「もっと学びたい」と思ったりしたことがある。
保護者	お子さんは、授業に興味をもって取り組めると言っている。
教職員	授業の中で生徒が意欲的に取り組むために教材や授業展開の工夫をしている。

3. 小集団学習の効果



生徒	班やグループによる学習は、お互いに教えあったり、話し合ったりしてわかりやすい。
保護者	お子さんは、班やグループによる授業は、わかりやすいと言っている。
教職員	小集団やTTIによる授業は生徒が主体的に学習に取り組んだり、思考を深めていくうえで効果的であった。

4. 少人数授業の効果



生徒	少人数や複数の先生で行われる授業は、わかりやすい。
保護者	お子さんは、少人数や複数の先生で行われる授業は、わかりやすいと言っている。
教職員	少人数やチーム・ティーチングにより学習の効果が上がっている。

○質問1では、全学年の生徒を見ると、96%以上の生徒が「当てはまる・やや当てはまる」と回答し、多くの生徒が肯定的に評価しています。一方で、保護者の肯定的な回答は86%と、生徒の評価と10%の差があります。

近年、問題解決能力の向上を目指し、「問題解決の筋道が即座には分からない問題の解決」を重視した授業づくりを行っています。それにより、基礎基本の指導が疎かにならないよう、本校生徒の学習の定着状況を確認し、より良い授業の実践に日々努めています。また、保護者の皆様に本校の取り組みを理解し、納得していただけるよう、ホームページへの掲載や授業参観、学校公開日を設定するなど、情報発信に努めてまいります。

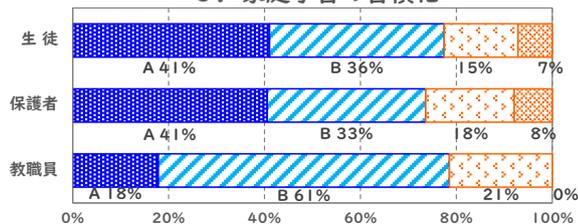
○質問2では、「あてはまる・ややあてはまる」と回答する割合は低くないものの、学年ごとに差があることが課題です。他学年との連携を密にし、教職員間での意思疎通を図りながら、授業改善を進めてまいります。また、生徒の実態をしっかりと把握し、生徒が学ぶ喜びや理解する楽しさを感じられるよう、教師からの一方的な授業ではなく、問題解決能力の向上を目指した授業づくりに日々努めていきます。さらに、タブレット等のICT機器を活用し、生徒の興味関心を引く授業づくりを進めてまいります。

○質問3では、「あてはまる・ややあてはまる」と回答する割合は低くないものの、学年ごとに差があることが課題です。他学年との連携を密にし、教職員間での意思疎通を図りながら、授業改善を進めてまいります。また、生徒の実態をしっかりと把握し、生徒が学ぶ喜びや理解する楽しさを感じられるよう、教師からの一方的な授業ではなく、問題解決能力の向上を目指した授業づくりに日々努めていきます。さらに、タブレット等のICT機器を活用し、生徒の興味関心を引く授業づくりを進めてまいります。

○質問4では、肯定的な回答が約85%を占めており、高い水準を示しています。数学では、3年生の授業において、少人数制の基礎コースと標準コースに分かれた授業を実施しています。英語では、3年生では少人数授業やチームティーチングを状況に応じて取り入れ、2年生の一部の授業では複数の教員によるチーム・ティーチングを行っています。数学では、生徒が自分に合ったコースを選択でき、特に基礎コースでは理解のペースに合わせて学習を進めることが可能です。数学・英語ともに教員の目が行き届きやすく、生徒にとって質問しやすい環境が整っています。今後も、生徒が学力の定着を実感し、主体的に学習に取り組めるよう、より分かりやすく楽しい授業づくりに努めていきます。

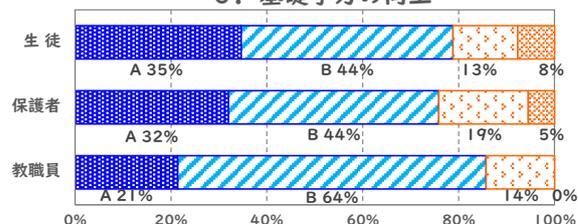
【確かな学力の定着と指導の充実】(質問5~6)

5. 家庭学習の習慣化



生徒	宿題や家庭学習を忘れずにしている。
保護者	お子さんは、宿題や家庭学習を忘れずにしている。
教職員	家庭学習の重要性を理解させ、学習習慣の定着に努めている。

6. 基礎学力の向上



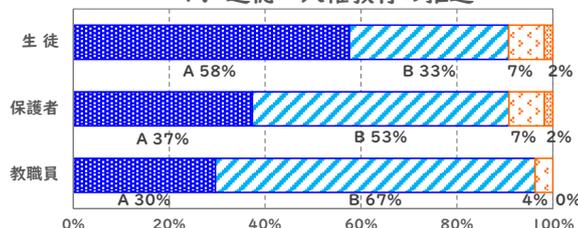
生徒	基礎学習(Toki10)は、基礎学力の向上につながっている。
保護者	基礎学習(Toki10)は、お子さんの基礎学力の向上につながっている。
教職員	基礎学習(Toki10)に落ち着いて取り組み、基礎学力の向上につながっている。

○質問5・6では、生徒・保護者ともに約80%が肯定的な回答を示しています。基礎学力については、1・2年生がToki10(帰り学活前の10分間)、3年生が朝の読書の時間に朝学習やToki10で受験対策用のプリント学習を行っています。学年が上がるにつれ学力の定着が見られ、特に3年生の家庭学習の習慣化の成果が顕著です。1・2年生についても、Tokiノートを使った予習・復習や、ドリルパークなどタブレットを用いた家庭学習の習慣づけを図り、内容の精選や改善に取り組んでいます。各学年とも真剣に取り組んでおり、一定の効果が感じられますが、さらに一人ひとりが効果を実感できる内容にしていく必要があると考えます。家庭学習が習慣化しない理由として、ゲームやテレビ、スマホなどの誘惑や、勉強の方法や内容が分からないことが挙げられます。家庭学習を行う際には、集中を妨げるものを遠ざけたり、自分にできることから始めるなど、学校からも継続的にアドバイスを行いますが、ご家庭でもご協力をお願いします。

また、家庭学習の内容についてご家庭への情報発信に注力し、学校と家庭が連携して取り組んでまいりますので、引き続きご協力をお願いします。

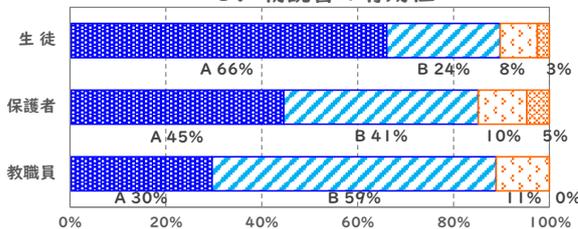
【確かな人間性の育成】(質問7~9)

7. 道徳・人権教育の推進



生徒	学校では、道徳や人権の大切さについてよく学習できる。
保護者	学校は、豊かな心をもち人権を大切に育てようとしている。
教職員	心の教育充実のため、道徳や人権教育の推進に努めている。

8. 朝読書の有効性

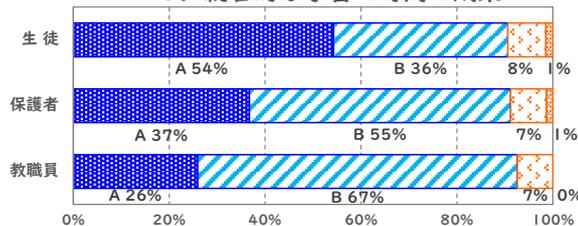


生徒	朝の読書に落ち着いて取り組んでいる。
保護者	お子さんは、朝の読書に落ち着いて取り組んでいると言っている。
教職員	生徒は、朝の読書に落ち着いて取り組んでいる。

○質問7では、生徒・保護者ともに道徳や人権教育に関して肯定的にとらえています。前年度の学習計画をもとに、各学年、検討を重ね授業を計画し、学年にあった教材や資料をもとに授業を進めることができました。また、ICTを活用してより多くの生徒の意見を交流できるようにするなど、より深く考えられるように学習しています。また、人権講演会、1年生が常磐・常磐西小学校の6年生とともに学習する人権フォーラムなども行いました。しかし、学校生活を送るなかで、周りの仲間に対して不適切な言葉もみられるため、今後は、より学年での検討を重ねていく必要があると思います。

○質問8では、朝の読書では、チャイムとともに静かな雰囲気の中で読書(3年生は朝学習)を始めています。このことが、落ち着いた学校生活を送ることにつながっていると考えています。3年生では、朝の読書に替わり、入試対策学習を行っています。読書で一日が始まる習慣から進路学習としての入試対策学習に移行し、本に向き合う時間は減少しましたが、読書をおして培ってきた集中力を学習に生かし、進路実現に向けて努力する姿を支援していきたいです。

9. 総合的な学習の時間の成果

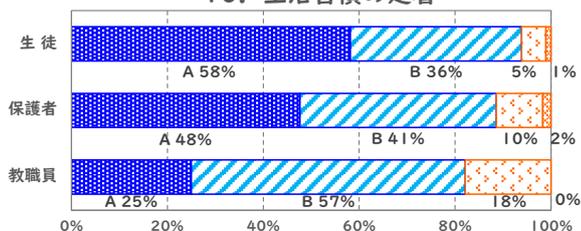


生徒	総合的な学習の時間(福祉体験・キャリア学習等)で意欲的に取り組むことができている。
保護者	学校は、総合的な学習の時間(福祉体験・キャリア学習等)を通して自ら学び、行動する力をつける教育をしている。
教職員	学校は、総合的な学習の時間における体験活動を通して、自ら学ぶ主体的な生徒の育成に努めている。

○質問9では、総合的な学習の時間に対する意欲や成果は、生徒・保護者・教職員のいずれからも90%以上の高評価を得ています。総合的な学習の時間には、3年間を通して進路学習・キャリア学習に取り組み、1年生では様々な職業の方から話を聴く「職業ガイダンス「ザ・プロフェッショナル」、2年生では「職場体験学習」を行い、3年生での進路選択につなげています。また、1年生で福祉体験学習としてSSピンポンを体験するなど、様々な活動を取り入れながら学習を進めています。計画の立案から実行、振り返り、そして新たな課題への取り組みを通じて、生徒たちは多くのことを学んでいます。今後も、生徒や保護者、教職員が達成感を感じられるような充実した活動を続けていきたいと考えています。また、保護者や地域の方々に学習の過程や成果を通信やホームページを通じて発信し、家庭でも取り組みの成果を感じられるよう工夫を続けていきます。今後も、教師自身が道徳性や人権感覚を磨くとともに、生徒の豊かな人間性の育成を目指して、活動を工夫しながら進めていきます。

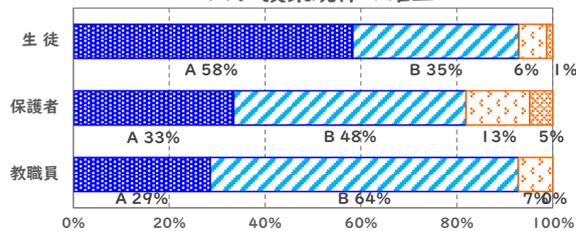
【生徒指導・生徒理解の充実】(質問10~13)

10. 生活習慣の定着



生徒	「あいさつをする」「時間を守る」「身なりを整える」がきちんとできている。
保護者	お子さんは、家庭や地域で、きちんとあいさつしている。
教職員	「挨拶をする」「時間を守る」「身なりを整える」等の基本的な生活習慣の徹底に努めている。

11. 授業規律の確立



生徒	授業の規律を守り、落ち着いて授業を受けている。
保護者	学校では、授業が落ち着いて行われている。
教職員	落ち着いて授業が行われるように指導の工夫をしている。

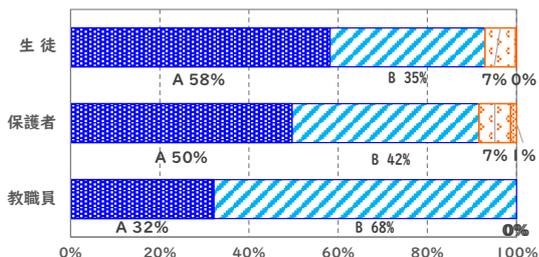
○質問10では、生活委員会の取り組みである「ベル席チェック」では、室長を中心に声掛けを行い、生徒間で呼びかけ合うことで、時間を守る意識が定着してきています。ほとんどの生徒が始業前に着席し、落ち着いて授業に臨むことができます。ただ、ベル席までに間に合わなかったり、落ち着かないときもあり、今後も意識の定着ができるよう取り組んでまいります。服装については朝の会や始業時に点検しています。

あいさつについては、毎週木曜日に「あいさつ運動」を行い、社協のあいさつ運動と共に実施しています。しかし、自分からあいさつをすることや、相手のあいさつに返すことができない生徒がいることも毎年の課題です。教師も生徒へのあいさつを常に心がけて指導していますので、家庭でもご指導いただけるとありがたく思います。

服装面については、「場面に応じた服装・行動を」と一貫して指導しています。昨年度から引き続き、始業・終業のあいさつについても面接の場面を意識して指導しています。

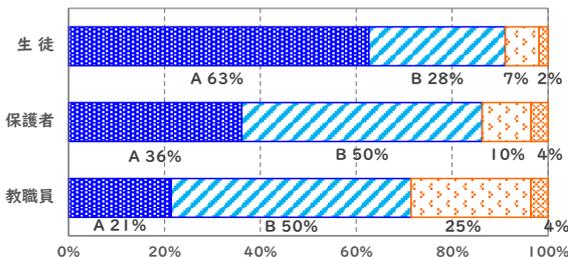
○質問11では、生徒の回答はおおむね「規律を守り、落ち着いて授業を受けている」となっています。しかし、一部の生徒については、落ち着いて授業を受けられていない生徒がいるという意見もあります。また、保護者の皆様の回答は前年と比べて下がっており、授業規律や学校での様子に不安を感じている保護者もいます。生徒自身がより良い学校の雰囲気を作れるように、各家庭、各教育委員会などの関係機関とも連携しながら、安心安全な学校づくりに努めていきます。また、各学年の室長会を中心に各クラスの現状を話し合い、落ち着いて授業が行われるよう、規律の徹底や授業内容の工夫にも取り組んでまいります。

12. 生徒理解の充実



生徒	先生たちは、いろいろな相談に乗ってくれる。
保護者	お子さんは、先生と話しやすく、相談がしやすいと言っている。
教職員	生徒と気軽に話し合える関係をつくり、相談しやすいように努めている。

13. 生徒指導体制の充実



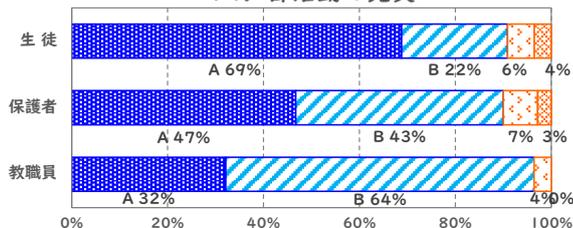
生徒	先生たちは、いじめや悪いことをしたとき、きちんと指導してくれる。
保護者	学校は、いじめや暴力などさまざまな問題を見逃さずに指導している。
教職員	生徒指導上の問題が発生したとき、組織的に対応できる体制が整っている。

○質問12では、前年度よりも肯定的な回答を得られています。昨今の情勢もあり、不安な気持ちになる生徒も多く、様々な生徒の声に耳を傾けるように心掛けました。また、各学期の教育相談期間を設定し、連絡ノートなどをきっかけに、ふれあい指導の実践により親密なコミュニケーションを図ることで、信頼関係の構築に努めています。担任だけでなく、教科担当や部活動顧問も生徒の変容を捉え、職員間のコミュニケーションを密にするよう心掛けています。スクールカウンセラーも活用し、生徒の悩みや辛さに耳を傾けられるようにしています。

○質問13では、生徒指導上の問題が発生した時は、学年全体、学校全体の教職員が問題解決に向けて連携を図っています。1割未満の生徒が教職員の対応に対して否定的な意見を示している結果を受け止め、その声も大事にしていけるよう努めます。各学期に「いじめ調査」を行い、積極的にいじめを認知することで、全教職員でいじめを許さない雰囲気を作っていきます。「いじめ調査」だけでなく、「教育相談期間」でも、生徒の声を聞き、今後もいじめ防止、早期発見に努めていきます。また、普段の生活の会話や表情の変化を見逃さず、安心できる学校環境作りに向けて一層努力していきます。

【生徒指導・生徒理解の充実】(質問14)

14. 部活動の充実

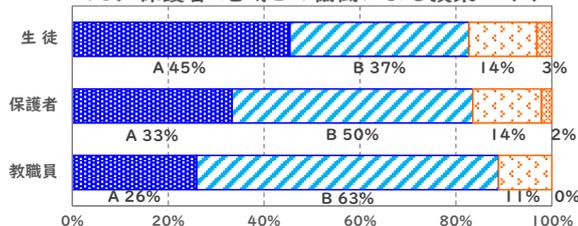


○部活動の充実は、生徒・保護者・教職員のいずれからも90%以上の高評価を得ています。今年度から部活動は生徒の「自主的・自発的な加入」となっており、そのことで自主・自立的な活動につながっています。令和8年度の秋頃から、休日の活動は地域活動に移行する予定ですが、引き続き、心も体も大きく成長する中学校の時期に、目標を持って放課後・休日の時間を過ごせるよう取り組んでまいります。

生徒	部活動に積極的に参加し、熱心に活動している。
保護者	学校は、部活動指導に積極的に取り組んでいる。
教職員	部活動の指導に積極的に取り組んでいる。

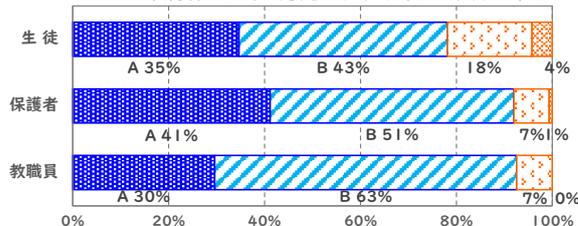
【保護者・地域・関係機関との協働による学校づくり】(質問15~17)

15. 保護者・地域との協働による授業づくり



生徒	地域の方々に教えていただく体験学習や人権・進路学習などは意欲的に取り組める。
保護者	お子さんは、地域の方々に教えていただく体験学習や人権・進路学習などは興味をもって取り組めると言っている。
教職員	体験学習や人権・進路学習などを地域・保護者の方々と共に行う企画づくりに努めている。

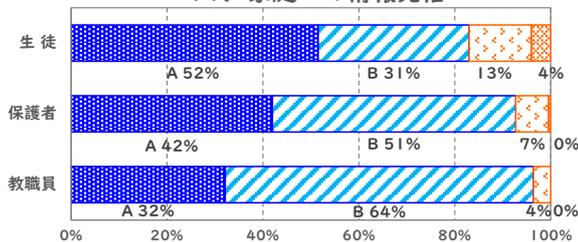
16. 保護者・地域の意見の把握、協力体制の確立



生徒	授業参観・学校公開や行事などに保護者や地域の方の参加が多い。
保護者	学校は授業を公開し、地域や保護者から意見を聞き、保護者の理解と協力を得ようとしている。
教職員	授業公開や懇談会を通して、地域や保護者から意見を聞き、理解と協力を得ようとしている。

○保護者・地域との協働による授業づくりについては、様々な経験を持つ人々との出会いを通じて、新しい気付きや意識の向上を目指しています。特に、2年生では、5月に外部講師を招いてマナー講座を開催し、6月には職場体験学習を実施しました。職場体験学習を行うことができ、地域の職場の方々から多くを学び、日常生活にも役立つ良い経験となりました。今後も地域と教職員が協力して授業を進め、生徒が地域に貢献できるようにしたいと考えています。また、1年生ではPTAの協力により職業ガイダンスを開催し、多様な職種の方々からお話を聞くことができました。今後も地域に根ざした取り組みを継続し、福祉体験学習や職場体験学習だけでなく、意識を高めるための様々な方法を工夫し、学校全体で共有していきたいと考えています。

17. 家庭への情報発信



生徒	家の人に通信や学校から配られた書類をきちんと渡している。
保護者	学校は、懇談会や通信・ホームページで学校や子どもの様子をわかりやすく伝えている。
教職員	学校は、保護者に通信や懇談会などで学校や子どもの様子をわかりやすく伝えている。

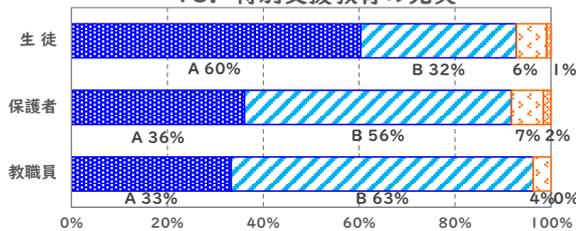
○質問17では、保護者の90%以上から肯定的な回答を得られています。また、定期的に「学校だより」や「学年通信」などの発行、ホームページの更新などをしており、保護者のみなさまに読んでいただいているようです。できるかぎり写真を掲載することで、生徒の様子を伝え、学校や子どもの様子をわかりやすくお伝えしています。また、三者懇談会でも、各担任が丁寧に説明できていると思います。今後も学校での姿がわかりやすいように発信していきたいと思っています。体育祭、文化祭、学校公開などの行事には、多くの方々に参観していただきました。学校公開は、5月、11月、2月の3回行いました。3回目の2月には小学校6年生の保護者にも案内をしています。普段の学校の様子をありのまま参観していただき、普段の姿を発信しています。また、文化祭については、昨年同様オンライン配信も行いました。来年度以降、より参観しやすい工夫を考えていきたいと思っています。

○今後も、家庭・地域・関係機関のみなさまとともに、地域の子どもたちをよりよく育てていくために、保護者や地域等と連携・協働した取組を行い、地域全体で子どもたちを育てていく雰囲気を醸成していきたいと思っています。

【その他】(質問18~21)

【特別支援教育の充実】(質問18)

18. 特別支援教育の充実



生徒	障がいがあってもなくても、自分の力を発揮して学習や様々な活動に参加できている。
保護者	障がいのある子もいない子も、自分の力を発揮して学習や様々な活動に参加できている。(特別支援教育の充実)
教職員	障がいのある子どももいない子どもも、自分の力を発揮して学習や様々な活動に参加できるようにしている。

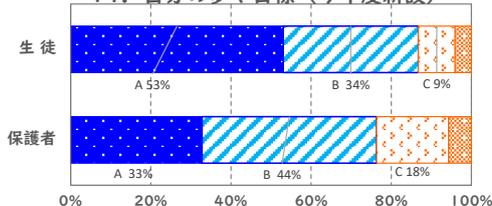
○質問18では、生徒・保護者とも90%近く肯定的な回答となっています。

生活学級の生徒が他の生徒と共に活動することは、双方にとって大切な学習の機会になっています。教職員にとっては、個に応じた支援や配慮について学ぶことにより、すべての生徒にとってわかりやすい授業づくり、安心できる環境づくりを考えることに役立っています。

今後も、教職員が特別支援教育についての研修を深め、生徒が互いに正しく理解し、共に助け合い、支え合って生きていくことの大切さを学ぶことができるよう取組を進めたいと思います。

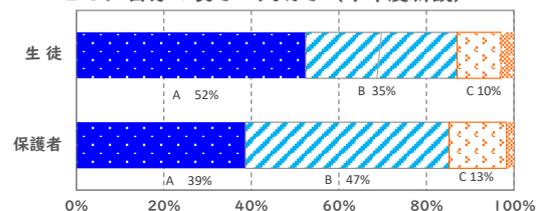
【自分の夢や目標、自己肯定感】(質問19・質問20)

19. 自分の夢や目標 (今年度新設)



生徒	自分の夢や目標に向かって取り組んでいる。
保護者	お子さんは、自分の夢や目標に向かって取り組んでいる。

20. 自分の良さ・大切さ (今年度新設)



生徒	自分の良さに気づき、自分を大切にしている。
保護者	お子さんは、自分の良さに気づき、自分を大切にしている。

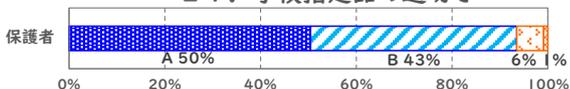
○学校づくりビジョンの一環として、「めざす生徒の姿」の目標に関連する新しい質問を今年度実施しました。質問17では、生徒の87%が肯定的な回答を示しました。保護者の回答は77%で、若干の差がありますが、生徒たちが自分の夢や目標に向かって内に秘めた思いを持っていることがわかります。また、質問18については、生徒と保護者の86%以上が肯定的な回答をしていました。

生徒が「〇〇になりたい」と語る夢や目標は、自己肯定感を育む上で非常に重要です。将来の目標を持つことは、生徒が自立に向かうための道しるべとなります。保護者や教職員など、子どもを育てる大人がその夢や目標をどう受け止めるかによって、子どもの心の成長に大きな影響を与えます。

生徒が日常的に好奇心を持って調べたり、自分で行動したりする経験を積み重ねられるように、また自己肯定感を持てるように、保護者や他者として関わり、成長を促すことが大切です。家庭、学校、地域社会が今後も連携していくことが求められますので、引き続きご協力をお願いします。

【学校指定品の適切さ】(質問21)

21. 学校指定品の適切さ



保護者	学校指定の物品(制服・体操服・体育館シューズ・スリッパなど)は、適切である。
-----	--

○質問21では、90%を超える肯定的な回答をいただいています。学校指定の物品については、品質と価格のバランスを考慮しつつ、適正な物品選定に努めています。また、制服については、昨今の値上げの影響を想定し、複数の業者を指定して選択できるようにしています。

今後も、見直すべき点がないか検討していきます。

【まとめ】

上記の項目にない内容も含めて、ご意見・ご要望をいただきました。いただきましたご意見・ご要望については全教職員で共有し、すぐに改善できるものについては対応し、その他のものについても検討をしております。この学校アンケートに限らず、何かご不明な点がございましたら、学校までご連絡ください。

今年度、本校職員の不祥事や、授業に落ち着かない学校の状況において、多くのご意見やご指摘などをいただいております。ご心配をおかけしております。改めてコンプライアンスを徹底するとともに、今後とも、保護者をはじめ、教育委員会、地域関係機関と連携し、教職員一同、安心安全な学校づくりに努めていきます。

今回アンケートのご意見の中に、感謝や激励のお言葉をいただきました。中学生の3年間は、自分で進路を切り拓いていく大きな成長の時期であり、その大切な時期にお子様をお預かりしている私たち教職員も、責任の重大さを痛感しながら日々の教育活動を行っています。そのような中、感謝や激励のお言葉をいただき、大変ありがたく思うとともに、今後の教育活動の励みになりました。今後も、ご家庭や地域、関係機関と協力して、生き生きと輝く生徒の育成を目指し、学校としても改善に努めたいと思いますので、引き続き本校の教育活動にご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。